



U.S. DEPARTMENT OF  
HEALTH AND HUMAN SERVICES

[www.hhs.gov/news](http://www.hhs.gov/news) | 202-690-6343

FOR IMMEDIATE RELEASE

米国食品医薬品局（FDA）、過去最大規模の乳児用粉ミルク検査結果を発表

ワシントン発 — 2026年4月29日 — 米国食品医薬品局（FDA）は本日、米国市場で販売されている乳児用粉ミルクに含まれる化学汚染物質に焦点を当てた、過去最大規模かつ最も厳格な検査結果を発表しました。母乳は可能な限り乳児にとって最良の栄養源であり、理想的な栄養源として広く認識されていますが、何百万もの親が粉ミルクに頼っています。

「これまで以上に多くの乳児用粉ミルクを検査した結果、ほとんどの製品は高い安全基準を満たしていることがわかりました。しかし、新生児にとっては微量の汚染物質であっても無視できません」と、ロバート・F・ケネディ・ジュニア厚生長官は述べました。「私たちは製造業者に責任を負わせ、親が信頼できる正直で透明性の高いデータを提供します。子どもたちの健康を守ることは、決して譲れないことです。」

「社会の真価は、最も弱い立場にある人々をどのように扱うかで判断できます。だからこそ、私たちは乳幼児が安全で高品質な粉ミルクを、強固なサプライチェーンに支えられた形で利用できるよう、あらゆる努力を尽くしています」と、FDA長官のマーティ・マカリー医師（公衆衛生学修士）は述べました。「今回の調査結果は心強いものです。私たちは、粉ミルクに頼る何百万もの家族のために、粉ミルクの革新と安全性の向上に引き続き取り組んでいきます。」

検査対象となった製品全体において、圧倒的多数のサンプルから汚染物質が検出されなかったか、ごく微量しか検出されず、米国の乳児用粉ミルクの供給が安全であることが確認されました。FDAは、米国全土の小売店で販売されている製品を代表する300種類以上の乳児用粉ミルクサンプルを検査し、鉛、水銀、カドミウム、ヒ素、農薬（グリホサート、グルホシネートを含む）、パーフルオロアルキル物質（PFAS）、フタル酸エステル類について、12万件以上のデータポイントを取得しました。粉末、液体、濃縮液を含むサンプルは、FDAの研究所で厳密な検査と分析を受けました。

検査対象となった乳児用粉ミルクサンプル中の汚染物質の全体的なレベルは低かったものの、FDAは継続的な厳格な監視・監督活動の一環として追加検査を実施し、必要に応じて追加措置を講じます。これには、追加の汚染物質を含むさらなる検査の実施、汚染物質レベルを可能な限り低く抑えるための対策について製造業者との協議を継続すること、乳児用粉ミルク中の汚染物質に関する基準値の設定に向けた取り組みなどが含まれます。

「私自身も父親として、親が子供に与える食品の安全性を信頼できることがいかに重要かを理解しています。FDAにとって、アメリカの次世代の健康を守ることは極めて重要です」と、食品担当副長官のカイル・ディアマンタス（法務博士）は述べています。「オペレーション・ストック・スピードとクローサー・トゥ・ゼロ・イニシアチブを通じて実施された今回の検査（この種のものとしては初めて）は、米国における乳児用粉ミルクが、それを利用する親や介護者にとって安全な選択肢であることを改めて示すものです。私たちは、厳格な監視を通じて汚染物質を可能な限り低く抑えるべく、今後も努力を続けていきます。」

乳児用粉ミルクや母乳を含む食品には、微量の汚染物質が含まれている可能性があります。これは、汚染物質が自然に存在するか、原材料の栽培・生産地域における人間の活動によって環境に混入するためです。

今回の検査は、「オペレーション・コウトリの速さ (Operation Stork Speed、<https://www.fda.gov/food/infant-formula-homepage/operation-stork-speed>)」、FDA の「限りなくゼロに近づくイニシアチブ (Closer to Zero initiative、<https://www.fda.gov/food/environmental-contaminants-food/closer-zero-reducing-childhood-exposure-contaminants-foods>)」、そして FDA の定期的な食品監視活動の一環として実施されました。これらの活動は、米国全土の家族に安全で信頼できる栄養価の高い乳児用粉ミルクを提供することを目的としたものです。

FDA は、「オペレーション・コウトリの速さ」および継続的な食品監視の一環として、乳児用粉ミルクの検査を継続します。これには、今回の最初の調査開始以降に米国市場に出回った乳児用粉ミルク製品の検査や、追加のコンプライアンスサンプリングの実施が含まれます。FDA は透明性への取り組みに基づき、追跡調査の結果を公表する予定です。

ケネディ長官は5月に、主要な乳児用粉ミルクメーカーの最高経営責任者 (CEO) を招き、FDA の乳児用粉ミルク監督体制の近代化と、栄養、化学、微生物学的食品安全を含む「オペレーション・コウトリの速さ」の継続的な実施に焦点を当てた円卓会議を開催します。

###

## **FDA が国家優先審査制度に基づき、遺伝性難聴治療のための初の遺伝子治療薬を承認 画期的な AAV ベースの遺伝子治療は、OTOF 遺伝子関連重度～高度難聴および高度難聴患者に有望な治療効果をもたらす可能性を秘めている**

米国食品医薬品局 (FDA) は 2026 年 4 月 23 日、初の二重アデノ随伴ウイルス (AAV) ベクターを用いた遺伝子治療薬であるオタルメニ (lunsotogene parvec-cwaha) を承認しました。オタルメニは、OTOF 遺伝子の分子生物学的に確認された二対立遺伝子変異に関連する、重度～高度難聴および高度難聴 (あらゆる周波数で 90 dB HL 超) の小児および成人患者の治療に適応されます。

ニューイングランド・ジャーナル・オブ・メディシン誌に聴力回復に関する強力な研究結果が掲載されたことを受け、FDA は迅速審査のための国家優先審査制度を速やかに適用しました。本日の承認は、生物製剤承認申請 (BLA) 提出からわずか 61 日後に発行されたもので、FDA 長官の国家優先パウチャー (CNPV) パイロットプログラムにおける 6 番目の承認であり、同プログラムで承認された初の遺伝子治療製品となります。また、これは FDA の近代史における BLA 承認の最速記録にも並びます。

メディア見出し：

- ニューヨーク・タイムズ：希少な難聴を持つ子供たちが聴力を回復する新たな遺伝子治療
- ウォール・ストリート・ジャーナル：FDA、史上初の聴力回復遺伝子治療を承認
- NBC ニュース：FDA、遺伝性難聴に対する初の遺伝子治療を承認
- Fox ニュース：バイオフィーマ・ダイブ：FDA、リジェネロン社の難聴遺伝子治療を承認
- CNN：FDA、遺伝性難聴に対する初の遺伝子治療を承認、希少疾患を持つ子供たちの聴力回復効果が実証
- ブルームバーグ：FDA 承認を受け、リジェネロン社、難聴治療を無償提供へ
- NPR：FDA、難聴に対する初の遺伝子治療を承認
- ロイター通信：リジェネロン社、遺伝性難聴に対する初の遺伝子治療で FDA の承認を獲得
- フォーブス：希少難聴に対する新たな遺伝子治療が FDA の承認を獲得 — 知っておくべきこと
- ニューヨーク・ポスト：FDA、難聴に対する「人生を変える」遺伝子治療を承認 — しかも無料
- CNBC [クリップ]：リジェネロン CEO、史上初の FDA 承認遺伝子治療による聴力回復について語る
- エンドポイントニュース：リジェネロン、難聴遺伝子治療の承認を獲得、米国での価格契約を締結
- フィアース・ファーマ：リジェネロン、画期的な遺伝子治療の承認で新たな遺伝子医療時代を切り開く
- US ニュース&ワールド・レポート：遺伝性難聴に対する初の遺伝子治療が FDA 承認を獲得
- バイオフィーマ・ダイブ：FDA、リジェネロンの難聴遺伝子治療を承認

- メディカル・プロフェSSIONナルズ・リファレンス：オタルメニ、遺伝性感音性難聴治療薬として FDA 承認を獲得
- メドウォッチ：FDA、リジェネロンの遺伝性難聴遺伝子治療を承認
- ネイチャー・バイオテクノロジー：歴史的な FDA 承認により、遺伝性難聴に対する初の遺伝子治療が実現
- ヒアリング・レビュー：FDA、OTOF 関連難聴に対するオタルメニ遺伝子治療に迅速承認を付与
- ベッカーズ・ホスピタル・レビュー：FDA、遺伝性難聴に対する初の遺伝子治療を承認
- ファーマシー・タイムズ：FDA 遺伝性難聴に対する初の遺伝子治療薬「オタルメニ」が迅速承認を取得
- Precision Medicine Online：FDA、希少な遺伝性難聴に対する初の遺伝子治療薬を承認
- Hearing Health Matters：リジェネロン社、難聴遺伝子治療薬「オタルメニ」で画期的な FDA 承認を取得

#### 医療専門家：

- コロンビア大学アービング医療センター聴覚専門医、ローレンス・ラスティグ医師（ウォール・ストリート・ジャーナル紙）：「まさか自分の生きている間にこんな日が来るとは夢にも思っていませんでした…」
- カリフォルニア大学サンフランシスコ校小児耳鼻咽喉科医、ディラン・チャン医師（ニューヨーク・タイムズ紙）：「…画期的な出来事です…聴覚障害のある子どもたちが聞こえるようになる治療法が、歴史上初めて登場しました。」
- ボストン小児病院の小児耳鼻咽喉科医で、リジェネロン社の治験の主任研究者であるエリオット・シアラー医師は、NBC ニュースに対し、「これは聴覚障害のあるお子さんを持つご家族にとって、まさに人生を変える出来事です…」と述べています。遺伝子治療によって改善された聴力は「24 時間 365 日持続し、電池に頼る必要もありません…」
- ボストン小児病院の小児耳鼻咽喉科医で、リジェネロン社の治験の主任研究者であるエリオット・シアラー医師は、BioPharma Dive 誌で次のように述べています。「治験参加者が母親の声に反応し、音楽に合わせて踊り、世界と交流する様子を目の当たりにしてきました。このような瞬間は、この特定の難聴を持って生まれたより多くの子供たちにも可能になるでしょう…遺伝性難聴の治療における新時代が到来し、24 時間 365 日自然な聴覚を取り戻すことが可能になったのです…」
- マサチューセッツ眼耳病院の小児耳科・神経耳科部長であるダニエル・リー医師は、ニューヨーク・タイムズ紙で次のように述べています。「私たちは今、内耳性難聴に対する生物学的治療の時代に突入しました…」
- マサチューセッツ眼耳病院の准研究員鄭毅陳氏は NPR(National Public Radio) に対し、「難聴に対する新薬が登場したのは史上初です…これは歴史的な出来事であり、画期的な出来事であり、この分野全体にとって大きな進歩だと思います…」と語った。Hear.com のシニア聴覚専門医、レイチェル・アーツマ氏は Fox News に対し、「聴覚医療における大きな節目です…この 1 回限りの遺伝子治療は特定の遺伝子集団に限定されますが、早期診断と遺伝子検査の重要性を改めて示しています…このような進歩は聴覚科学における意義深い発展を反映しており、生物学的治療、技術、臨床ケアが患者の長期的な予後改善に向けてますます融合していることを示しています。」と述べた。
- リジェネロン共同創業者兼社長のジョージ・ヤンコプロス博士は CNN に対し、「私たちは、科学、そしてこの場合はバイオテクノロジーが、いかに人々に真の贈り物、つまり聴覚という贈り物をもたらすことができるかを示す好例を作りたいのです」と述べました。
- リジェネロン共同創業者兼社長のジョージ・ヤンコプロス博士は、リジェネロンのプレスリリースの中で、「オタルメニは科学における大きな飛躍であり、人類の利益のために科学の限界を常に押し広げようとするリジェネロンの姿勢を象徴するものです。この遺伝子治療における前例のないブレークスルーは、すでに臨床試験に参加している多くの子供たちとその家族にとって、人生を変えるものとなっています」と述べています。

#### 支援者と団体：

- 臨床試験参加者の母親であるシエラ・スミスさんは NPR に対し、「信じられないことです。今では息子は私がどれだけ愛しているかを声に出して聞くことができるようになりました。そして、自分の名前があることも知っています。そして、様々な音を発見しています。本当に驚きです。私はとても恵まれていて、世界で一番幸せな母親だと感じています」と語りました。
- ロイター通信によると、リジェネロンで治療を受けた難聴の息子を持つシエラ・スミスさんは、「息子が他の子供たちと交流できるようになったこと、自分の名前を覚えて、名前を呼ぶと振り向くようになったことなど、信じられないような出来事です…」と語っています。CNN によると、臨

床試験参加者の母親であるケリーさんは、「奇跡です…重度の難聴で、技術を使わないと聞こえないと言われていた子供が、友達と同じように聞こえるようになったのです。…本当に素晴らしいことです。」と述べています。

- ニューヨーク・タイムズによると、臨床試験参加者の母親であるケリーさんは、「私たちの人生は完全に変わりました…私たちは本当に幸運です…生まれつき難聴だった息子が、今では聞こえるようになったのです。」と語っています。
- リジェネロン社の CEO、レナード・シュライファー氏は CNBC に対し、「遺伝子を置き換えて感覚の一つを回復させるという、史上初の試みです。聴覚がいかに重要か、改めて実感しました。このプロジェクトには、当社の科学者、患者、医師、FDA（米国食品医薬品局）など、あらゆる関係者が協力しました。FDA 長官の承認も得ました。FDA が基準を下げているという批判もありますが、断じてそんなことはありません。このプロジェクトには多くの時間と労力が費やされました。FDA は高い基準を維持していますが、重要なプロジェクトであれば迅速に進めるべきだという姿勢を示しています。この点において、FDA を称賛したいと思います」と述べた。
- リジェネロン社の遺伝子治療担当副社長、ジョナサン・ウィットン氏は BioPharma Dive に対し、「このような治療において、16 歳と 21 歳で本当に違いはあるのでしょうか？私たちはそうは思いません…治療可能な年齢層がこれほど広いように見えることは、私を含め、この分野の多くの人々にとって嬉しい驚きです」と述べています。
- 同じくリジェネロン社の遺伝子治療担当副社長、ジョナサン・ウィットン氏は NPR に対し、「今、私たちは初めて、実際に耳が聞こえるようになる薬について話しているのです。これはまさに新時代の幕開けです…この分野に 20 年ほど携わってきた私のような者にとって、これは信じられないような成果です。ほんの数年前には、こんなことが可能になるとは想像もしていませんでした…私たちが目にしてきたことは、実に驚くべきことです」と述べています。
- リジェネロン・ジェネティック・メディシンス共同責任者のアリス・バラス氏は、エンドポイント・ニュースに対し、「生まれつき聴覚障害のある子どもが、ごく短期間で正常な聴力を取り戻す可能性が出てきた。これは本当に驚くべきことだ。聴覚障害治療における多くの可能性の第一歩となることを期待している」と述べた。
- MAHA アクション (@MAHA\_Action) は、X を通じて、「トランプ大統領は、FDA が難聴の原因となる疾患を治療する治療法を承認したと発表した。リジェネロン社はこの治療を無償で提供することに同意した。この画期的な治療法により、生まれつき聴覚障害のある子どもたちが初めて音を聞くことができるようになった。これまで治療不可能と考えられていた疾患に苦しむ家族にとって、大きな前進となる」とコメントした。臨床経済評価研究所 (ICER) のサラ・エモンド所長兼 CEO は、NBC ニュースを通じて次のように述べています。「リジェネロン社は、患者がこれらの治療法を手頃な価格で受けられるようにするための選択肢の一つとして、医療制度に治療費を請求しないことが考えられることを示してくれました…」
- ハンズ&ボイスのエグゼクティブディレクターは、リジェネロン社のプレスリリースを通じて次のように述べています。「つながりとコミュニケーションは、私たちが世界をどのように経験するかの核心です。それは、聞くことや話し言葉、手話、テクノロジーの使用、あるいはこれらの組み合わせなど、どのような方法であれ…遺伝性難聴に対処する際、家族はバランスの取れた情報と幅広い選択肢を得る権利があります。新しい治療法やイノベーションが登場するにつれ、家族は利用可能な選択肢を評価し、選択することができます。「それぞれの患者様の状況に最も適した治療法です。」
- 聴覚健康財団 (@HearingHealthFn) は X を通じて次のように述べています。「オタルメニの投与手術は人工内耳埋め込み手術と同様の手法を用い、乳幼児への使用が可能です。リジェネロン社は、米国において臨床的に適格と判断された患者様にオタルメニを無償で提供します。」
- 患者のための医薬品価格支援団体 (@P4AD\_) の CEO、メリス・ベイシー氏は X を通じて次のように述べています。「本日、オタルメニが承認されたことは画期的な出来事であり、この治療法を無料で受けられるようになるご家族の皆様にご心からお祝い申し上げます。」

インフルエンサーおよびメディア関係者：

- ワールドニュース・トゥナイト (X を通じて)「FDA は、希少な遺伝性疾患を持つ聴覚障害児が聴力を回復できる、史上初の治療法を承認しました。リジェネロン社は、対象となる少数の患者様にこの新しい遺伝子治療を無償で提供すると発表しました。@DavidMuir がレポートします。」
- スクワーク・ボックスの司会者、ベッキー・クイック氏は CNBC を通じて次のように述べています。「これは本当に素晴らしいことです。」

- ニュースマックスの番組「ザ・レコード・ウィズ・グレッタ・ヴァン・サステレン」の司会者、グレッタ・ヴァン・サステレン氏：「素晴らしいニュースです。FDA からとてもエキサイティングなニュースが出ました。」
- リアル・アメリカズ・ボイスの番組「スティンチフィールド・トゥナイト」の司会者、グラント・スティンチフィールド氏：「トランプ大統領は RFK ジュニア氏と素晴らしい記者会見を開き、リジェネロン社と信じられないような契約を結びました。処方薬の価格を低く抑えることもその一つでしたが、生まれつき耳が聞こえなかった少年の難聴を文字通り治す、希少な遺伝性疾患の治療法に関する契約も締結しました。これは素晴らしいことで、アメリカ国民に無料で提供される予定です。」
- ニュースネーションの番組「バティア」の司会者、バティア・ウンガー＝サルゴン氏：「多くの素晴らしい成果が影に隠れてしまっていますが、今週もまたそうでした…FDA はリジェネロン社の新薬、つまり子供の難聴を治すことができる遺伝子治療薬を承認しました。」この合意を発表した記者会見には、小さな受益者が一人いました。他の政権であれば、聴覚障害のある子供たちが母親の「愛してる」という言葉を聞けるようにする治療は、間違いなくその週最大のニュースになっていたでしょう。私たちは、このことを見過ごすわけにはいきませんでした。
- CBS Mornings (Facebook より)：「『トラヴィスをトラヴィスらしくさせてあげて』：2歳のトラヴィス・スミス君は靴を履かないタイプだと、母親のシエラ・スミスさんが CBS Mornings に語った。木曜日、トランプ大統領が演説している間、トラヴィス君は大統領執務室で遊んでいた。シエラさんとトラヴィス君は、大統領がバイオテクノロジー企業リジェネロン社について演説した際、ホワイトハウスにいた。リジェネロン社は、生まれつき聴覚障害のあるトラヴィス君が参加した実験的治療法の臨床試験を実施していた。」
- スティーブ・シュルツ (@elijahstevie) (X より)：「すごい。前例のないことだ！聴覚障害のあるすべての子供たちに、無料で、しかも画期的な遺伝子治療が提供される。」メディアはこれを大声で叫ぶべきだ。どの主要メディアも、あなたの子供たちのためにこのニュースを報道することを拒否するなら…それはつまり、「私たちはあなたの子供にとってのこの画期的な出来事など気にしない！」と言っているのと同じだ。
- Niko McCarty (@NikoMcCarty) は X 経由で「すごいニュースだ。OTOF 遺伝子の変異を標的とした難聴の遺伝子治療が承認された。12人の子供のうち9人で聴力が回復し、人工内耳の使用をやめられるほどになった。この治療は米国では無料になる。」とコメント。
- Martin Varsavsky (@martinvars) は X 経由で「SFの世界から臨床へ。生まれつき難聴の子供の聴力を回復させる遺伝子治療が承認された。規制当局が許可すればバイオテクノロジーは成果を出す。ヨーロッパはAIの法制化を進めながら傍観している。」とコメント。
- Eric Daugherty (@EricLDaugh) は X 経由で「すごい！」とコメント。トランプ大統領は、聴覚障害を治す遺伝子治療を受けた最初の子供の一人である2歳のトラビス・スミス君を大統領執務室に迎えました。この治療法は現在、FDA (米国食品医薬品局) の承認を受けています。「彼は音楽を聴くことができるようになりました。そして、それが大好きです。」素晴らしい！
- ニック・ソーター (@nicksortor) は X を通じて次のように伝えました。「大統領執務室で感動的な瞬間が訪れました。トランプ大統領は、2歳のトラビス君の母親に、彼の聴覚障害を治す治療法が FDA によって承認されたことを伝えました。トランプ大統領：「彼はこの奇跡的な治療を受け、今では母親のシエラが『愛してる』と言うのが聞こえるようになりました。」母親：「彼は自分の名前も知りませんでした。私がどれだけ彼を愛しているかを伝えることも聞こえませんでした。でも、この素晴らしい手術のおかげで、彼は音楽を聴くことができるようになりました。彼は音楽が大好きで、踊るのも楽器を演奏するのも大好きです。私は彼をとっても誇りに思っています。彼はこの間ずっととても勇敢でした。」彼は今、耳が聞こえるようになり、明るい未来が待っています。本当に感謝しています…
- Just The News (@JustTheNews) via X：「FDA は、難聴を引き起こす希少疾患を治療する遺伝子治療薬、リジェネロン社のオタルモニーという新薬を承認しました…彼はこの奇跡の治療薬を服用し、今ではお母さんの声が聞こえるようになりました。」トランプ大統領は、オタルモニーという画期的な技術によって、以前は耳が聞こえなかった幼児が聞こえるようになったことを知り、大変喜んでいました。
- Wall Street Apes (@WallStreetApes) via X：「ドナルド・トランプ大統領は、製薬会社リジェネロンとの合意を発表しました。FDA はまた、リジェネロンが開発した、小児の難聴を治療できる遺伝子治療薬を承認しました。リジェネロンはこの合意の一環として、医薬品の価格を大幅に引き下げ、アメリカの患者に最恵国待遇価格を適用することを約束しました。」価格引き下げの一例として、リジェネロンのコレステロール治療薬 プラルエント (アリロクマブ) は、537ドルから225ドルへと

大幅に値下げされます。リジェネロンはまた、新たに承認された難聴治療薬オタルメニ（ルンソトゲン・パルベック-cwha）を、対象となるアメリカの患者に無償で提供します。大きな勝利です。」

- Gemini (@Gemini) via X: 「速報：FDA が、生まれつき難聴の子供の聴力を回復させる史上初の遺伝子治療薬を承認。治療費は無料」

###

## FDA、リアルタイム臨床試験導入に向けた主要ステップを発表

### FDA、リアルタイム臨床試験の概念実証とパイロットプログラムの開始を発表

ワシントン発 — 2026年4月28日 — 米国食品医薬品局（FDA）は本日、リアルタイム臨床試験（RTCT）の導入を推進する取り組みの一環として、2つの主要ステップを発表しました。まず、エンドポイントとデータシグナルをリアルタイムでFDAに報告する2つの概念実証臨床試験が成功裏に開始されたことを発表しました。次に、今夏開始予定のRTCTパイロットプログラムに関する情報提供依頼（RFI）を発表しました。

初期段階の臨床試験は、医薬品開発におけるボトルネックとなっており、多くの場合、高い不確実性、限られた被験者数、非効率的な意思決定プロセスといった問題を抱えています。データは通常、治験実施施設からスポンサーに報告され、スポンサーがデータを分析した後、FDAに提出されます。AIとデータサイエンスの進歩により、スポンサーと治験実施施設は、安全性モニタリングを強化し、効率を飛躍的に向上させるリアルタイム治験を実施する機会を得ています。

「60年間、私たちは臨床試験を同じ方法で実施してきましたが、重要なデータシグナルがFDAに届くまでに何年もかかることがありました。このタイムラグは、規制当局の決定を不必要に遅らせ、医薬品開発のスケジュールを遅らせる可能性があります」と、FDA長官のマーティ・マカリ医師（公衆衛生学修士）は述べています。「私たちは、FDAの科学者が治験の進行に合わせて安全性シグナルとエンドポイントをリアルタイムで確認できる、現代的なアプローチを大胆に推進しています。これは、有望な治療法の開発を加速させ、医薬品開発の全段階でリアルタイムかつ継続的な治験を実施するという究極の目標の実現に貢献するでしょう。」

FDAは、アストラゼネカとアムジェンによる概念実証のためのリアルタイム臨床試験（RTCT）の開始が成功したことを発表しました。アストラゼネカは、テキサス大学MDアンダーソンがんセンターおよびペンシルベニア大学の協力を得て、未治療のマントル細胞リンパ腫患者を対象とした第2相多施設共同試験「TRAVERSE」を実施しています。アムジェンは、限局期小細胞肺癌患者を対象とした第1b相試験「STREAM-SCLC」を実施しており、最終的な実施施設の選定が進められています。FDAは、各試験について、リアルタイムでのシグナル報告基準の策定に関して、スポンサーと協議を行いました。その後、FDAはパラダイム・ヘルス社を通じてアストラゼネカの試験に関するシグナルを受領・検証し、リアルタイムシグナル共有に必要な技術的枠組みの実現可能性を確立しました。

FDAは、これらの概念実証に基づき、より広範なパイロットプログラムの構築を目指しています。今回の情報提供依頼（RFI）では、パイロットプログラムの設計と実施、評価指標、および成功基準に関する意見を求めています。

「リアルタイム試験については長年議論されてきました。私たちは、それが実現可能であるだけでなく、臨床試験のエコシステムを大きく変革する可能性を秘めていることを実証しました」と、最高AI責任者のジェレミー・ウォルシュ氏は述べています。「私たちは、潜在的に強力な治療法を待つ患者の視点から、プロセスを見直さなければなりません。」

リアルタイム臨床試験は、FDAが目指す継続的な臨床試験の促進に向けた重要な一歩です。現在、ほとんどの臨床開発は個別のフェーズで行われています。臨床開発の各フェーズはプロトコルに従って、通常は個別の試験として実施されるため、あるフェーズが終了してから次のフェーズが始まるまでの間に、開発プログラムに中断期間が生じます。これは製品開発のペースを遅らせる要因となります。リアルタイム試験によってFDAは重要な知見をリアルタイムで把握できるため、この中断期間を解消または最小限に抑えることができ、「継続的な」臨床試験が可能になります。

同機関は、2026年5月29日までRFI（情報提供依頼）に関する意見を受け付けます。最終選定基準は7月に公表し、パイロット選定は8月に完了する予定です。

###

## 報道関係者向け情報 — 準備目的のみ

### FDA、リアルタイム臨床試験実施に向けた主要措置を発表

内容：米国食品医薬品局（FDA）は、リアルタイム臨床試験（RTCT）の実施を推進する取り組みの一環として、2つの主要措置を発表します。

発表者：

FDA 長官 マーティ・マカリ医師（医学博士、公衆衛生学修士）

FDA 最高 AI 責任者 ジェレミー・ウォルシュ

FDA 副最高医療責任者 マリカ・ムンドクル医師

アムジェン、アストラゼネカ、パラダイム・ヘルス、ペンシルベニア大学ヘルスシステム、テキサス大学 MD アンダーソンがんセンターの業界リーダー

日時：4月28日（火）午後1時30分（米国東部時間）

報道関係者は午後1時（米国東部時間）までに会場にお越しください。

場所：FDA ホワイトオークキャンパス グレートルーム

10903 ニューハンブシャー通り

メリーランド州シルバースプリング 20993

参加申し込み：4月27日（月）午後3時（米国東部時間）までに、氏名、電話番号、身分証明書情報を添えて [FDAPressAlerts@fda.hhs.gov](mailto:FDAPressAlerts@fda.hhs.gov) までお申し込みください。参加者全員は、入場時に有効な REAL ID またはパスポートを提示する必要があります。外国籍の方は、セキュリティチェックに時間がかかるため、できるだけ早めにお申し込みいただくことを強くお勧めします。外国籍の方は、お申し込みの際にその旨を必ず明記してください。明記がない場合、入場が大幅に遅れたり、入場を拒否される可能性があります。

###

## 大統領令を受け、FDA は重篤な精神疾患治療薬の開発を加速

ワシントン発 — 2026年4月24日 — トランプ大統領は4月18日、米国保健福祉省に対し、重篤な精神疾患、特に重篤で複雑な、治療抵抗性の疾患を抱える患者への治療アクセスを加速するよう指示する大統領令を発令した。

この大統領令に基づき、米国食品医薬品局（FDA）は本日、知覚を変容させる幻覚剤の一種であるセロトニン 2A 受容体作動薬および関連製品の開発を支援するための一連の規制措置を発表した。

「トランプ大統領のリーダーシップの下、私たちは、イボガインのような幻覚剤療法を含む有望な精神疾患治療法の研究、承認、そして責任あるアクセスを加速させ、特に退役軍人を含む国民の精神保健危機に正面から立ち向かっています」と、ロバート・F・ケネディ・ジュニア厚生長官は述べました。

「FDA は、初期段階の証拠が重篤な精神疾患に対する既存の治療法よりも顕著な改善を示している、画期的治療薬指定を受けた治療法を優先的に審査します。」

「これらの薬剤は、治療抵抗性うつ病、アルコール依存症、その他の深刻な精神疾患や薬物乱用といった、国民の精神保健危機に対処する可能性を秘めています」と、マーティ・マカリ FDA 長官（医学博士、公衆衛生学修士）は述べました。「この分野が進展するにつれ、その開発が確固たる科学的根拠と厳密な臨床的証拠に基づいていることが不可欠です。私たちは、これらの疾患に苦しむ退役軍人やすべてのアメリカ国民のために、これらの有望な治療法を緊急に評価する義務があります。」

米国食品医薬品局（FDA）は、以下の研究を行っている 3 社に対し、国家優先承認バウチャーを発行しました。

- 治療抵抗性うつ病に対するシロシピン
- 大うつ病性障害に対するシロシピン
- 心的外傷後ストレス障害（PTSD）に対するメチロン

さらに、FDA は、治験薬申請（IND）提出後、塩酸ノリボガインの初期段階臨床試験の実施を許可しました。申請者は、再発率が高く治療選択肢が限られているアルコール使用障害の治療薬候補としてノリボガインを研究しています。これは、アフリカ原産のタベルナンセ・イボガ低木から抽出される精神活性インドールアルカロイドであるイボガインの誘導体について、FDA が米国での臨床試験を許可した初めての事例です。この決定により、新規薬剤を開発している DemeRx NB 社は、米国において厳重な監視下で第 I 相臨床試験を開始することが可能になります。

FDA の決定は、この研究の継続を認めるものであり、薬剤が承認された、あるいは安全性や有効性が認められたことを意味するものではありません。FDA は、入手可能なデータに基づき引き続き審査を行い、アルコール使用障害やその他の精神疾患に対する新たな治療法の開発を支援していきます。

FDA は、これらの製品を開発する企業向けに、最終ガイダンスを近日中に公表する予定です。セロトニン 2A 受容体作動薬および関連製品の臨床試験を設計するには、特有の科学的・方法論的な課題が伴います。最終ガイダンスは、一般からの意見を反映し、研究デザイン、データ収集・生成、患者モニタリング、適切かつ十分に管理された臨床試験の実施に関する推奨事項など、企業にとって重要な考慮事項を概説しています。

FDA 医薬品評価研究センター所長代理のトレイシー・ベス・ホーグ医師（医学博士）は、「治療が非常に困難な様々な精神疾患に対し、幻覚剤が有望であるという認識が高まっています」と述べています。「FDA は本日の措置を通じて、この種の薬剤の安全性と有効性に関する調査を支持する姿勢を示しています。」

###

## 米国保健福祉省、台風シンラクー被害を受けた北マリアナ諸島（CNMI）の無保険者を支援するため、緊急処方薬支援プログラムを発動

ワシントン D.C.（2026 年 1 月 7 日） - 米国保健福祉省（HHS）は、戦略準備・対応局（ASPR）を通じて、北マリアナ諸島（CNMI）のサイパン島、ロタ島、テナアン島の住民を対象とした緊急処方薬支援プログラム（EPAP）を発動しました。このプログラムは、台風シンラクーによって紛失または破損した可能性のある、医療保険未加入者に対し、必要な処方薬や特定の医療機器の補充を支援します。

EPAP では、対象となる方は、提携薬局から最大 30 日分の処方薬を無料で受け取ることができます。プログラムが有効である限り、30 日単位で処方薬の補充が可能です。さらに、EPAP は、杖、松葉杖、歩行器、車椅子、血糖値測定器、検査ストリップなどの特定の耐久医療機器（DME）および消耗品の交換費用を負担します。小売薬局で接種される一部のワクチンも対象となる場合があります。

「災害は、特に無保険者にとって、重要な医薬品や物資へのアクセスを阻害し、深刻な健康リスクをもたらす可能性があります」と、ASPR（保健福祉省医療政策・回復局）のジョン・ノックス首席次官補は述べています。「EPAP を通じて、HHS（保健福祉省）は、被災地域の無保険者が復興期間中も必要な医療と医薬品を引き続き受けられるよう取り組んでいます。」

被災地域の無保険者は、EPAP ホットライン（855-793-7470）に電話するか、EPAP ウェブサイトにアクセスして、資格要件の確認、対象となる医薬品や物資の確認、参加薬局の検索を行うことができます。メディケア、メディケイド、または児童健康保険プログラム（CHIP）に加入している方は、これらのプログラムで被保険者とみなされるため、EPAP の対象外となります。

EPAP は、連邦政府指定の災害地域に居住する対象者に対し、EPAP に登録した薬局が処方薬、ワクチン、特定の医療用品、および特定の種類の医療機器（DME）の請求を簡素化して提出できる仕組みです。全米で数千の薬局が EPAP に参加しており、まだ参加していない薬局は登録を推奨されています。

台風シンラクーの被害を受け、ロバート・F・ケネディ・ジュニア厚生長官は、台風による健康被害に対処するため、北マリアナ諸島（CNMI）とグアムに公衆衛生上の緊急事態を宣言しました。これは、トランプ大統領がグアムと CNMI の両方に対して大規模災害宣言を行ったことを受けての措置です。EPAP の発動は、被災地域を支援する連邦政府の包括的な対応策の一環です。

ASPR は、国家災害医療システム保健医療タスクフォース、医療システム評価チーム、精神保健チーム、インシデント管理チームなど、対応要員と資源を当該地域に派遣しました。これらのチームは、医療機器や物資の支援を受け、医療提供と医療システムのニーズ評価を行っています。

EPAP（緊急処方薬支援プログラム）の詳細については、HHS（米国保健福祉省）の緊急処方薬支援プログラムのウェブページをご覧ください。資格要件とプログラムのメリットを説明するアメリカ手話版の情報ビデオをご覧ください。台風シンラクーに対する ASPR の対応に関する最新情報は、ASPR のウェブサイトでご確認いただけます。

###

## ケネディ長官、ケーシー・B・マリガン氏を保健福祉省首席エコノミスト兼規制担当官に任命

ワシントン発 — 2026 年 4 月 17 日 — 米国保健福祉省は本日、ケーシー・B・マリガン博士を首席エコノミスト兼規制担当官に任命したと発表しました。マリガン氏はシカゴ大学の著名な経済学者であり、トランプ政権初期には経済諮問委員会の首席エコノミストを務めました。直近では、米国中小企業庁の政策提言担当首席顧問を務めていました。

マリガン氏は、ロバート・F・ケネディ・ジュニア保健福祉長官をはじめとする各省庁の幹部に対し、国民にとって医療費負担を軽減するための政策策定について助言を行います。担当業務には、規制の費用便益分析、計量経済モデルの構築、主要支出のプログラム評価などが含まれます。

「ケーシー・マリガン氏は、私たちが保健福祉省（HHS）に迎え入れようとしている一流の人材の典型例です」とケネディ長官は述べました。「彼はトランプ大統領の経済政策の成功に中心的な役割を果たし、今度はその専門知識を、米国経済の約 5 分の 1 を占める医療分野に活かしてくれるでしょう。」

「トランプ大統領とケネディ長官から、経済の基本原則を応用して医療費負担能力を最大限に高めるという任務を任されたことを光栄に思います」とマリガン氏は述べました。「彼らが編成した優秀な HHS のリーダーシップチームと共に、慢性疾患の予防と医療システム全体のコスト削減に取り組んでいくことを楽しみにしています。」

マリガン氏はハーバード大学で学士号を取得後、シカゴ大学で博士号を取得し、同大学で経済学教授を務め、医療における選択と競争を促進するためのイニシアチブを共同設立しました。彼は、トランプ大統領の 1 期目の記録的な経済成長と繁栄を描いた著書『You're Hired!』と、『Side Effects and Complications: The Economic Consequences of Health-Care Reform』の著者である。

###

## ケネディ長官、アリゾナ州で予防、回復、部族医療に重点を置き MAHA アジェンダを推進

フェニックス発 — 2026 年 4 月 8 日 — 米国保健福祉省のロバート・F・ケネディ・ジュニア長官は、「健康を取り戻そう」ツアーの一環として今週アリゾナ州を訪問し、医療、自立生活、回復支援の各分野のリーダーと会談し、予防に重点を置いたアジェンダの推進を図りました。

「アリゾナ州は、アメリカの医療の中心に予防を据えています」とケネディ長官は述べました。「回復、栄養、体力、そして個人のエンパワーメントを優先することで、州内の医療提供者は、事後対応型の疾

病治療システムから、アメリカ国民にとってより良い成果をもたらす真の医療システムへの転換を推進しています。]

4月4日(土)、ピオリアにあるキャメルバック・リカバリーは、ケネディ長官を迎え、依存症に苦しむ人々が持続的な回復への道を歩むためのプログラムを提供する同施設の居住型治療キャンパスを視察しました。ケネディ長官はその後、キャメルバック・リカバリーの最高経営責任者兼共同創設者であるティム・ウェストブルック氏とともに、薬物依存のない生活を祝う聴衆の前で、ポッドキャスト番組「I Love Being Sober」のエピソード収録に参加しました。二人は、トランプ大統領の「偉大なるアメリカ復興イニシアチブ」の共同議長としてケネディ長官がこれまで行ってきた活動について語り合いました。

「キャメルバック・リカバリーにケネディ長官をお迎えし、長期的な持続可能な回復を支援するために私たちが取り組んでいる活動についてお話しできたことを光栄に思います」とウェストブルック氏は述べました。「依存症は短期的な問題ではなく、コミュニティ、人生の目的、そして継続的な支援を含む、包括的で全人的なアプローチが必要です。予防、回復、そして真の成果へと議論の焦点を移そうとする、このようなリーダーシップを目の当たりにできることを嬉しく思います。」

4月6日(月)、ケネディ長官は、障害を持つアメリカ人を支援するフェニックスの自立生活センター(CIL)であるAbility360を訪問しました。長官は、最高経営責任者のクリストファー・J・ロドリゲス氏をはじめとするAbility360の幹部との円卓会議に参加しました。彼は、障がい者とその家族の自立、健康、そして総合的な幸福を促進する適応型スポーツ、レクリエーション、水泳、フィットネスプログラムを提供する、この施設のユニークなスポーツ・フィットネスセンターを視察しました。

「アビリティ360は、ケネディ長官が当団体が障がい者コミュニティに提供している多くの支援、サービス、プログラムに関心を示してくださったことに感謝しています」とロドリゲス氏は述べました。「メディアケイドの在宅・地域ベースサービスの重要性、そしてこれらの支援の継続性を強化する必要性について、長官とチームが時間を割いて有意義な対話をしてくださったことに感謝いたします。」

ケネディ長官は4月7日(火)、州内の医療関係者と意見交換を行いました。スコッツデールにあるバナー・スポーツ・メディスン・ハイパフォーマンスセンターを訪問し、最高経営責任者のエイミー・ペリー氏と最高臨床責任者のマージョリー・ベッセル博士と面会し、あらゆるレベルのアスリートに加え、パフォーマンス、健康、総合的なフィットネスの向上を目指すすべての人を対象とした同施設のプログラムについて説明を受けました。バナー・ヘルスの経営陣は、恵まれない地域社会に小児医療を提供する移動診療車「チルドレンズ・ヘルスマバイル」や、移動式マンモグラフィ検査車「ビッグ・ピンク・バス」など、予防医療への取り組みを強調しました。

「非営利医療システムとして、私たちは得た収益のすべてを、医療、サービス、技術、人材、そして地域社会への投資に充てています」と、バナー・ヘルスの社長兼最高経営責任者(CEO)であるエイミー・ペリー氏は述べています。「ケネディ長官に早期発見・予防プログラムをご紹介し、医療と保険を一体的に提供することで、アメリカの医療制度の財政的に持続可能なアプローチが実現できることを示せることを光栄に思います。保険料収入と価値に基づく医療アプローチによって、早期発見と慢性疾患管理への資金提供を通じて、医療費の抑制を図ることができます。この非営利で完全に統合された地域医療投資モデルは、全米の医療システムにとっての青写真となるものと確信しています。」

ツーソンのマラナ・ヘルスセンターで、ケネディ長官はフアン・シスコマニ下院議員(アリゾナ州第6選挙区)および保健資源サービス局(HRSA)のトム・エンゲルス長官とともに、アリゾナ州の医療関係者との円卓会議に出席し、国の慢性疾患危機を打開する上で予防がいかに重要であるかについて議論しました。ケネディ長官は、アリゾナ州が保健福祉省(HHS)の薬物乱用・精神保健サービス局(SAMHSA)を通じて2025会計年度に約1億5500万ドルの資金援助を受けたことを強調しました。

ケネディ長官とエンゲルス HRSA 長官は、350の医療センターに対し、プライマリケアの現場における栄養サービスと食餌療法へのアクセスを拡大するための、1億3500万ドルを超える新たな HRSA 資金提供機会を発表しました。また、家庭医学、内科、精神医学、産婦人科、一般外科、予防医学など、需要の高い専門分野における新たな地方研修プログラムに対し、15件の HRSA 助成金を交付することも発表しました。地方で研修を受けた医師は、現地での医療活動を促進し、人材不足の解消に貢献する。

「ケネディ長官と共にこの円卓会議に参加できたことは光栄でした。アメリカの健康を取り戻すという共通の目標を力強く推進してきた、勇敢な提唱者と地元のリーダーたちが一堂に会する場となりました」とシスコマニ下院議員は述べた。「この議論は、子どもたちの支援から地域社会の高齢者ケアの強化まで、アリゾナ州南部全体でこの使命を推進していくための協力の機会として非常に貴重なものでした。地域社会で医療リーダーたちが行っている活動を誇りに思いますし、それぞれの専門家が地域のために提供している独自の才能とサービスについてより深く知ることができたことを嬉しく思います。私たちのコミュニティの声に直接耳を傾け、アリゾナ州第6選挙区をはじめとする地域のニーズを連邦レベルで高めるために尽力してくださった長官に感謝いたします。」

ケネディ長官は、4月8日（水）にチャンドラーで開催された部族自治会議で基調講演を行い、アリゾナ州「健康を取り戻そう」キャンペーンを締めくくった。会議には全米各地から1,500人以上のネイティブアメリカン／アメリカンインディアンのリーダーが出席した。

ケネディ長官は、就任1年目に保健福祉省（HHS）がインディアン居留地のためにどのような成果を上げたかを強調しました。具体的には、職員の増員、米国人のための食事ガイドラインへの伝統食品の組み込み、そして30年にわたるインディアン保健サービス（IHS）のインフラ整備の遅れを解消するための10億ドルの投資などが挙げられます。

「部族国家は自らの民をどのようにケアすべきかを熟知しています。そして私たちは、より良い成果を上げるために、彼らの権限を拡大しています」とケネディ長官は述べました。「HHSはインフラ整備に投資し、連邦栄養政策に伝統食品を取り入れ、部族の主権を尊重しながらインディアン居留地で成果を上げています。」

###

## 報道関係者向け情報 — 計画立案のみを目的としています

### ケネディ長官、部族自治会議で講演

フェニックス — 2026年4月7日 — 米国保健福祉省長官ロバート・F・ケネディ・ジュニアは、部族自治会議に出席し、部族の主権、米国人のための食事ガイドライン、そして就任1年目にアメリカ先住民およびアラスカ先住民の健康問題に取り組むために講じた措置について講演します。

講演者：保健福祉長官 ロバート・F・ケネディ・ジュニア

日時：2026年4月8日（水）長官の講演は午前11時（山岳部標準時）に開始します。テレビ局および写真撮影者は、準備のため午前8時30分（山岳部標準時）までに会場に到着してください。印刷媒体の報道関係者は、午前10時45分（山岳部標準時）までであればいつでも到着可能です。

場所：ギラ・リバー・インディアン・コミュニティ ワイルドホース・パス・リゾート&カジノ（ショールーム）  
5040 ワイルドホース・パス・ブルバード  
アリゾナ州チャンドラー 85226

参加申し込み：報道関係者の方は、[jays@tribalselfgov.org](mailto:jays@tribalselfgov.org) までメールでご連絡ください。

###

## 保健資源サービス局（HRSA）、栄養サービス拡充と地方医療従事者強化のため1億3500万ドル超の資金提供を発表

アリゾナ州マラナ発 — 2026年4月7日 — 保健資源サービス局（HRSA）は本日、栄養サービス拡充と地方医療従事者強化のための新たな資金提供機会として、1億3500万ドル（約212億円）超を発表しました。ロバート・F・ケネディ・ジュニア保健福祉長官は、トム・エンゲルス HRSA 長官、フア

ン・シスコマニ下院議員（アリゾナ州第6選挙区）とともに、主要関係者との予防医療に関する円卓会議において、この重要な投資を発表しました。

「予防医療はコスト削減、医療成果の向上、そして『アメリカを再び健康にする』という我々の使命を推進します」とケネディ長官は述べました。「これらの投資は、特に最も必要としている地方コミュニティにおいて、質の高い手頃な価格の医療へのアクセスを拡大するものです。」

「HRSA は、医療従事者の強化、予防医療の推進、そして不可欠な栄養サービスへのアクセス拡大に尽力しています」とエンゲルス HRSA 長官は述べました。「エビデンスに基づいた栄養サービスを提供する新たな地方居住プログラムを支援することで、慢性疾患の予防、健康状態の改善、そして全米各地のコミュニティにおける HHS（米国保健福祉省）および『Make America Healthy Again（アメリカを再び健康に）』の優先事項の推進に役立つ、より強力で持続可能な医療システムを構築しています。」

#### 資金提供機会の概要

- 栄養サービス拡充（ENS）のための1億2,500万ドル：この資金は、HRSA（保健資源サービス局）の資金提供を受けている350以上の医療センターが、プライマリケアの現場における栄養サービスおよび食品ベースの介入へのアクセスを拡大することを支援します。これらの取り組みは、肥満、心臓病、糖尿病などの慢性疾患の予防と管理を目的としており、政権の『Make America Healthy Again』の優先事項に沿ったものです。
- 農村地域研修医育成計画・開発（RRPD）プログラムに1,125万ドル：米国保健資源サービス局（HRSA）は、今後3年間で最大15件、1件あたり最大75万ドルの助成金を交付し、家庭医学、内科、精神医学、産婦人科、一般外科、予防医学など、需要の高い専門分野における新たな農村地域研修医プログラムを支援する予定です。農村地域で研修を受けた医師は、その地域で開業する可能性が著しく高く、医療従事者不足の解消に貢献します。

HRSA の資金援助を受けた医療センターは、全国16,000ヶ所以上の施設で3,240万人以上の患者に医療サービスを提供しており、その中には農村地域住民の5人に1人が含まれています。

RRPD プログラムは、メディケアやメディケイドなどの長期的な資金源に支えられた、持続可能な農村地域研修医プログラムを設立するための初期資金を提供します。2019年以降、HRSA は36州と1準州に103件の助成金を交付し、62の認定プログラム、660名以上の研修医、そして地方コミュニティにおける750以上の研修医ポストを支援してきました。

栄養サービスの拡充と地方の医療従事者の強化は、医療へのアクセスを改善し、予防医療サービスを向上させ、慢性疾患の負担を軽減することにつながります。

詳細については、[www.hrsa.gov](http://www.hrsa.gov) または [www.grants.gov](http://www.grants.gov) をご覧ください。

###

#### 関係者のコメント…米国保健福祉省（HHS）と環境保護庁（EPA）が、マイクロプラスチックから国民を守り、飲料水を保護するための画期的な取り組みを発表

この共同イニシアチブは、EPA の汚染物質候補リストにマイクロプラスチックが初めて掲載されたことを意味し、人体からプラスチックを検出・除去する画期的な ARPA-H プログラムの開始を記念するものです。

ワシントン – 米国環境保護庁（EPA）のリー・ゼルディン長官と米国保健福祉省（HHS）のロバート・F・ケネディ・ジュニア長官は本日、米国国民が直面する最も喫緊かつ深刻化する公衆衛生上の課題の一つであるマイクロプラスチック汚染に対処するための、画期的な連携行動を発表しました。EPA 本部で行われた記者会見で発表されたこれらの措置は、トランプ大統領の「アメリカを再び健康にする」という公約における大きな前進を意味します。

#### メディアヘッドライン：

- フォックスニュース：HHS と EPA がマイクロプラスチック撲滅作戦を発表 — マーク・シーゲル博士独占インタビュー

- ロイター通信：米国の機関が飲料水中のマイクロプラスチックと医薬品を監視へ
- USA トゥデイ：RFK ジュニア氏、水中のマイクロプラスチックと PFAS 問題で行動を起こす
- CBS ニュース：HHS、マイクロプラスチックの人体への影響を研究する 1 億 4400 万ドルのプログラムを発表
- CBS モーニングス【クリップ】：環境保護庁（EPA）が初めてマイクロプラスチックを優先汚染物質リストに追加
- ABC ニュース【クリップ】：EPA、飲料水中のマイクロプラスチックを調査へ
- ニューヨーク・タイムズ：EPA 飲料水中のマイクロプラスチックと医薬品を規制対象に
- ワシントン・ポスト：EPA、飲料水中のマイクロプラスチックと医薬品を汚染物質に指定する動き
- フォックスニュース：RFK ジュニア氏、人体と飲料水中のマイクロプラスチックを研究する 1 億 3400 万ドル超の国家プログラムを開始
- ウォール・ストリート・ジャーナル：EPA、飲料水中の汚染物質としてマイクロプラスチックと医薬品を優先的に規制対象に
- AP 通信：EPA、飲料水中のマイクロプラスチックと医薬品を汚染物質に指定する動き
- NPR：EPA、飲料水中のマイクロプラスチックと医薬品を汚染物質として指摘
- ブルームバーグ：EPA、飲料水中のマイクロプラスチックと医薬品の安全性を調査へ
- ガーディアン：EPA、飲料水中のマイクロプラスチックと医薬品を汚染物質に指定する動き
- ロサンゼルス・タイムズ：連邦保健・環境機関、飲料水中のマイクロプラスチックと医薬品を調査へ
- NBC ニュース：EPA、飲料水中のマイクロプラスチック規制に向けた第一歩を踏み出す
- デイリー・ワイヤー：トランプ政権大手製薬会社とマイクロプラスチック対策の主要措置を発表
- ワシントン・エグザミネー：EPA、マイクロプラスチックと抗うつ剤を水質汚染物質としてリストアップすることを提案
- ザ・ヒル：EPA、飲料水基準値設定の可能性についてマイクロプラスチックの調査を提案
- ニュースマックス：EPA、飲料水中の汚染物質としてマイクロプラスチックと医薬品を指定する動き
- OANN：RFK Jr.、マイクロプラスチック撲滅を宣言：HHS、MAHA（マイクロプラスチック・アライアンス・アライアンス）が米国の水道水と人体から「永遠の粒子」を排除するための攻勢を開始
- ニュースネーション：EPA、飲料水中のマイクロプラスチックと医薬品を監視へ
- メドページ・トゥデイ：EPA、飲料水中の汚染物質としてマイクロプラスチックと医薬品を含める可能性
- NOTUS：EPA、MAHA の要請に応じ、マイクロプラスチックと抗うつ剤を飲料水汚染物質として分類
- STAT：EPA、飲料水中の汚染物質調査リストにマイクロプラスチックを追加へ
- サイエントフィック・アメリカン：ロバート・F・ケネディ・ジュニア氏と環境保護庁（EPA）が、水道水と人体におけるマイクロプラスチックの追跡調査計画を発表
- デイリー・コーラー紙：トランプ政権、飲料水中のマイクロプラスチック撲滅に宣戦布告
- ナショナル・パルス紙：MAHA（米国マイクロプラスチック協会）：マイクロプラスチックと医薬品が初めて水道水中の汚染物質としてリストアップされる
- エポックタイムズ：RFK Jr.、人体からのマイクロプラスチック除去に関する調査を発表
- NTD：RFK Jr.、マイクロプラスチック対策に 1 億 4400 万ドルの計画を発表
- プラスチックニュース：MAHA、トランプ大統領に新規プラスチック工場の建設停止とマイクロプラスチック規制を求める
- ザ・ウィーク：EPA、水道水汚染物質リストにマイクロプラスチックと医薬品を追加
- KFF ヘルスニュース：HHS、水に溶け出す微細なプラスチック粒子の健康影響を調査へ
- ケミカル&エンジニアリングニュース：米国政府、マイクロプラスチックの研究と飲料水規制の可能性を検討
- センタースクエア：HHS と EPA がマイクロプラスチックをさらなる研究対象に指定したことに対し、各団体が反応
- E&E ニュース：EPA、水道水中のマイクロプラスチックと医薬品の追跡調査を検討
- フードセーフティマガジン：EPA、飲料水汚染物質候補リストにマイクロプラスチック、医薬品、PFAS を追加
- クライメートチェンジディスパッチ：トランプ政権、飲料水中のマイクロプラスチック撲滅に宣戦布告水

- 全国ニュースデスク：検査した胎盤 62 個からマイクロプラスチックが検出されたという研究結果
- WKZO：米国の機関が飲料水中のマイクロプラスチックと医薬品の監視を開始
- Fox 45 Baltimore：ケネディ厚生長官、マイクロプラスチックの解明と除去を目的としたプログラムの開始を発表

#### 医師と科学者：

- イェール大学環境健康科学科長、ヴァシリス・ヴァシリオウ氏（ニューヨーク・タイムズ紙）：「これは心強い結果だ…」
- ギャノン大学研究員、シェリー・メイソン博士（NPR）：「これは重要な第一歩であり、そのことを認識すべきだ…」
- ノースカロライナ大学チャペルヒル校環境科学・工学科長、レベッカ・フライ氏（NBC ニュース）：
  - 「マイクロプラスチックのモニタリングを行っていないということは、データが不足していることを意味します。今回の取り組みによって新たな情報が得られるようになり、新たな情報は常に有益です。」
- ブラウン大学公衆衛生学部長のアシシュ・ジャ博士は、NewsNation を通じて次のように述べています。「これは誰にとっても良いことです。マイクロプラスチックは心臓発作の増加や、その他様々な健康被害と関連しています。人々の体内に取り込まれるマイクロプラスチックの量を減らす方法を見つけることができれば、それは良いことです。私はこれを前向きな行動だと考えています。」
- コロンビア大学産婦人科臨床教授のサミュエル・バダリアン医師（医学博士、哲学博士）は、X を通じて次のように述べています。「EPA は飲料水中のマイクロプラスチックと医薬品の規制に乗り出しました。」
- ウィル・コール博士 (@drwillcole) は X を通じて次のように述べています。「これは史上最も重要なマイクロプラスチック削減戦略です。全米各地の何万人もの人々の検査室を視察してきた者として、これほど多くの人々の体内にこれらの毒素が存在し、ホルモン、炎症、心臓の健康、免疫系、腸内環境、そして生殖能力に影響を与えていることに衝撃を受けています。」
- カーン・イランジュオール博士 (@drkaanyl) は X を通じて次のように述べています。「米国はマイクロプラスチックに宣戦布告しました！マイクロプラスチックは人体のほぼすべての臓器に蓄積しています！脳、血液、母乳、胎盤、精巣、心臓、肝臓、腎臓！さらに、マイクロプラスチックの蓄積は癌や生殖器系、消化器系、呼吸器系の損傷とも関連付けられています。」
- スティーブン・クエイ医師 (@quay\_dr) は X を通じて、「マイクロプラスチックの何が問題なのか？それは、脳卒中、心臓発作、そして死亡との関連性があるからだ！血管内にマイクロプラスチックが検出された患者は、これらの事象の発生率が 450%増加した。この研究は NIH（米国国立衛生研究所）などの資金提供を受けている。HHSGov（米国保健福祉省）、ロバート・ケネディ・ジュニア議員、NIH 長官ジェイ・ケネディ氏に感謝する」と述べている。
- トム・オリバーソン医師 (@TomOliverson) は X を通じて、「マイクロプラスチックが正式に問題になった。テキサス州下院環境規制委員会での私の仕事は、さらに面白くなった…」と述べている。

#### 擁護団体および組織：

- 米国公衆衛生協会 CEO のジョルジュ・ベンジャミン氏は、The Center Square を通じて、「水道水の安全性を確保することは、公衆衛生の中核的な責任である。政権が特にマイクロプラスチックに注目していることを嬉しく思う」と述べている。
- 米国化学評議会（ACC）の規制・科学担当副会長、キンバリー・ワイズ・ホワイト博士は、プレスリリースで次のように述べています。「人々はマイクロプラスチックについて明確な答えを求めており、飲料水モニタリングプログラムは、明確な定義の策定、十分な検査能力の確保、全国で一貫して使用できるサンプリングおよび検査方法の標準化など、既存のいくつかの課題に対処しなければなりません。ACC とその加盟企業は、この取り組みが進展するにあたり、EPA（米国環境保護庁）と HHS（米国保健福祉省）に専門知識を提供する用意があります。」
- 消費者ブランド協会（CBA）の規制・技術担当副会長は、The Center Square を通じて次のように述べています。「私たちは、科学に基づいた強力な連邦政府の取り組みを継続的に支持し、健全な科学に基づいた政策を推進するために政権と協力することに尽力します。」
- MAHA Action (@MAHA\_Action) は、X を通じて次のように述べています。「RFK Jr. は、HHS と EPA がマイクロプラスチックが人間の健康にどのような害を及ぼしているかを調査する大規模な取り組みを開始すると発表しました。『測定できないものは治療できません。理解できないものは規制できません。』」 「私たちは STOMP（Systematic Targeting of Microplastics：マイクロプラスチ

ックの体系的標的化)を開始します。」「これは、人体からマイクロプラスチックを測定、理解、除去するための1億4400万ドルの国家プログラムです。」

- MAHA Action (@MAHA\_Action) は X 経由で次のように投稿しました。「RFK Jr.が、人体内で発見されたマイクロプラスチックに関する衝撃的なデータを共有しました。これはすべてのアメリカ人が聞くべきことです。『プラスチックは現代生活に深く浸透しています。そして、人体にも深く浸透しています。』」
- Children's Health Defense (@ChildrensHD) は X 経由で次のように投稿しました。「警告：『研究者たちは、人間の血液、肺組織、肝臓、腎臓、胎盤からマイクロプラスチックを検出しました。』RFK Jr.が、人々を恐怖に陥れるべき人体内のマイクロプラスチックに関するデータを共有しました。」
- 全米綿花協議会 (NCC) はプレスリリースで次のように述べています。「全米綿花協議会は、米国環境保護庁 (EPA) 長官リー・ゼルディン氏と保健福祉省 (HHS) 長官ロバート・F・ケネディ・ジュニア氏が本日発表した、飲料水および人体中のマイクロプラスチックに関する研究と公衆衛生対策を推進するための新たな措置を高く評価します。NCC は、EPA が第6次汚染物質候補リスト草案においてマイクロプラスチックを優先汚染物質グループに指定したこと、および HHS がマイクロプラスチックへの曝露とその潜在的な健康影響を測定、理解、対処するための決定的なツールボックスを作成するための新たなプログラム「STOMP (Systematic Targeting Of MicroPlastics)」を開始したことを歓迎します。」
- 全米綿花協議会会長ネイサン・リード氏はプレスリリースで次のように述べています。「ゼルディン長官、ケネディ長官、そしてトランプ政権が、アメリカの家族を守り、将来の政策策定に役立つ科学に基づいた取り組みを推進していることに感謝します。政策立案者と研究者がマイクロプラスチックの発生源と影響を引き続き調査していく中で、
- マイクロプラスチックに関して、私たちはこの研究が、人々が日常的に使用する製品における綿などの天然繊維の価値をさらに強調できると期待しています…私たちは、EPA、HHS、そして政権と協力して、実用的で科学に基づいた解決策を支援していくことを楽しみにしています。」
- アメリカ・ファースト・ポリシー・インスティテュート (@A1Policy) は X を通じて、「きれいな水のための大きな動き！EPA 長官のリー・M・ゼルディン氏は、EPA がマイクロプラスチックと医薬品を史上初めて優先汚染物質として扱うと発表しました！」とコメント。
- コンサーバンシーのロブ・シソン会長 (@Rob\_Sisson) は X を通じて、「私の意見では、マイクロプラスチックは今日人類が直面している最大の環境脅威です。リー・ゼルディン長官に感謝します！」とコメント。
- プラスチック汚染連合のマネージングディレクター、ジェン・フェラ氏は、ザ・センター・スクエアを通じて「マイクロプラスチックが私たちの体と健康に及ぼす影響に関する研究への投資を高く評価します…」と述べています。
- 天然資源防衛協議会 (NRDC) の健康担当上級戦略ディレクター、エリック・D・オルソン氏は、ケミカル&エンジニアリング・ニュースを通じて「飲料水中の有害な PFAS とマイクロプラスチックについて懸念するのは当然です…」と述べています。
- ビヨンド・プラスチックの代表で元 EPA 地域長官のジュディス・エンク氏は、ロイター通信を通じて「…重要な第一歩です」と述べています。
- アリゾナ州選出の元米国上院議員、キルステン・シネマ氏 (@kyrstensinma) は、X を通じて「これは素晴らしいニュースです！」と述べています。

#### インフルエンサーとメディア関係者：

- ヴァニ・ハリ (ニューヨーク・タイムズ)：「これこそが『メイク・アメリカ・ヘルシー・アゲイン』運動の真髄です。慢性疾患の原因となっている隠れた化学物質への曝露を特定し、ついに規制プロセスに組み込むこと…公式に追跡していないものは規制できません。そして今、マイクロプラスチックと医薬品が、飲料水に関して連邦政府の監視対象に正式に加わりました。」
- アレックス・クラーク (@yoalexrapz) (X)：「EPA から本当に素晴らしいニュースが届きました。MAHA (メイク・アメリカ・ヘルシー・アゲイン) の勝利です！みんな大喜びするべきですね！」
- エリック・ドーハティ (@EricLDaugh) (X)：「速報：ロバート・F・ケネディ・ジュニア保健長官が、マイクロプラスチックを全国規模で体系的に除去するプログラムを発表しました。これは、人体からマイクロプラスチックを除去する能力を大幅に向上させるためのプログラムです。すごい！」

- TikTok の Libs (@libsoftiktok) は X 経由で「速報：RFK Jr.が、マイクロプラスチックを『測定、理解、除去する』ことを目的とした新たな国家プログラム、STOMP の創設を発表。アメリカを再び健康に！」とコメント。
- Lara Logan (@laralogan) は X 経由で「これが、正しい理由で正しいことをしようとする権力者がいるということ。アメリカ国民は真実を知り、守られる権利がある。私たちはマイクロプラスチックについて読み、子供たちや自分自身のことを心配し、なぜこの状況を変える力を持つ誰も何も言わないのかと疑問に思い、疑念を抱く。そんな時、今回のような歴史的な瞬間が訪れ、ある程度の信頼を取り戻せる。完全にではないが、まだまだ道のりは長い。しかし、少なくとも、どんな攻撃を受けようとも、体制に立ち向かう善良な人々がいることを示している。今の攻撃の性質と広がりを見ると、情報戦の兆候だと認識する。」とコメント。コメントが似すぎている時もあるれば、早すぎる時もあるし、意味不明だったり、不必要に下品だったりする時もある。作業員なのか、ボットなのか、金で雇われた作業員なのか、あるいはその全てなのか、全く分からない。世論の高まりを期待して、他人を扇動するために仕組まれているのかもしれない。でも、実際にはそんなことはどうでもいい。彼らがあなたに対してリソースを投入するということは、あなたが時間やお金などを投資するに値するほど効果的だということだ。つまり、彼らは心配しているということだ。そして、心配するべきだ。彼らは神と真実に負けているのだ。」
- Gunther Eagleman (@GuntherEagleman) via X: 「ドーン！リー・ゼルディンが EPA が飲料水中のマイクロプラスチック、医薬品、永久化学物質、その他数十種類の汚染物質を厳しく取り締まることを正式に確認した。またもや MAHA の大勝利だ！」
- Mario Nawfal (@MarioNawfal) via X: 「FK Jr: マイクロプラスチックは今や人間の血液、肺、肝臓、腎臓、胎盤の中にある。」脳だけでもスプーン一杯分のプラスチックが体内に存在している！まさにプラスチック漬けの生活だ。本日、米国保健福祉省 (HHS) と環境保護庁 (EPA) は 1 億 3000 万ドルのプログラムを開始する。その目的は？マイクロプラスチックを測定し、理解し、体内から除去することだ。これはマイクロプラスチック対策における政府による初の本格的な取り組みとなる。さあ、戦いの始まりだ。
- アンナ・マツソン (@AnnaRMatson) は X を通じて次のように述べている。「HHS と EPA がマイクロプラスチックに注目し始めた…ようやくだ。マイクロプラスチックは人体全体に存在することが分かっているが、それが私たちの健康にどのような影響を与えているのか、まだ正確には分かっていない。今回の発表は、飲料水中のマイクロプラスチックを制限し、人体内のマイクロプラスチックを測定し、除去方法を研究するのに役立つだろう。」
- ライト・サイド・ブロードキャスティング・ネットワーク (@RSBNetwork) は X を通じて次のように述べている。「動画：RFK ジュニア氏がマイクロプラスチックが人体に及ぼす危険性について語る」
- ワン・アメリカ・ニュース (@OANN) は X を通じて次のように述べている。「HHS 長官ロバート・F・ケネディ・ジュニア氏が、マイクロプラスチックの体系的標的化 (STOMP) の開始を発表した。」このプログラムは、人体からマイクロプラスチックを測定、理解、除去することを目的としています。
- 看護師ケイト・ジョン (@Nursekatejohn) は X 経由で次のように述べています。「マイクロプラスチックは、心臓の重大な疾患の一因となっており、その減少と除去は、米国の出生率全体に影響を与えている。マイクロプラスチックは健康被害として真剣に受け止めなければならない。EPA (米国環境保護庁) の今回の措置は第一歩だ。」
- Johnny MAGA (@johnnymaga) は X 経由で「RFK Jr.が、マイクロプラスチックを研究し、最終的には人体から除去するための 1 億 4400 万ドルのプログラムを発表した。連邦政府がこれらの環境毒素の拡散を阻止するために取り組むのは史上初だ。これは MAHA (Make America Health Association: 人体健康協会) にとって大きな勝利だ。」とコメント。
- Chief Nerd (@TheChiefNerd) は X 経由で「RFK Jr.は『62 個の胎盤を調べたところ、すべてのサンプルからマイクロプラスチックが検出された。これは出生前から曝露が始まっている証拠だ』と述べた。」
- MJTruthUltra (@MJTRuthUltra) は X 経由で「RFK Jr.が STOMP (Systematic Targeting of MicroPlastics: マイクロプラスチックの体系的標的化) を発表…その目的は、人体からマイクロプラスチックを測定し、理解し、除去することだ。」とコメント。
- Unusual Whales (@unusual\_whales) は X 経由で「RFK Jr が STOMP (Systematic Targeting Of MicroPlastics: マイクロプラスチックの体系的標的化) の開始を発表 — 人体からマイクロプラスチックを測定、理解、除去するための国家プログラム」と投稿した。
- Polymarket (@Polymarket) は X 経由で「速報：RFK Jr が EPA と HHS が飲料水中のマイクロプラスチックと医薬品の監視を開始すると発表」と投稿した。

- Vittorio (@IterIntellectus) は X 経由で「素晴らしいニュース！検査されたすべてのヒトの脳、胎盤、精巣のサンプルからマイクロプラスチックが検出された。心臓発作、癌、不妊、神経炎症との関連が指摘されている。連邦政府は対策に 1 億 4400 万ドルを投じることを決定したが、これはゴールではなく、最初の本格的な一歩だ。MAHA はここ数年で最も重要な公衆衛生上の決定を下した」と投稿した。
- Insider Paper (@TheInsiderPaper) は X 経由で「速報：ケネディ長官が STOMP (Systematic Targeting Of MicroPlastics：マイクロプラスチックの体系的標的化) の開始を発表。これは人体からマイクロプラスチックを測定、理解、除去するための国家プログラムである。」と投稿した。
- Gregory Latham Jr (@B7grWinning) は X 経由で「称賛に値する素晴らしいニュースだ…ケネディ長官はマイクロプラスチック対策に取り組んでおり、環境保護庁 (EPA) を巻き込んでマイクロプラスチック対策を進めている。またしても素晴らしい #MAHA の動きだ。」と投稿した。

###

## ARPA-H、人体内の有害なマイクロプラスチック対策に向け、画期的な 1 億 4400 万ドル規模のプログラムを開始

新たな STOMP プログラムは、マイクロプラスチックが体内に蓄積するメカニズムを解明し、人々の健康への潜在的な影響から人々を守るための新たな方法を開発する

ワシントン D.C. — 2026 年 4 月 2 日 — 米国保健福祉省 (HHS) 傘下の先端研究プロジェクト庁 (ARPA-H) は本日、マイクロプラスチックおよびナノプラスチック (MNP) の人体内における測定、研究、そして費用対効果の高い除去のための決定的なツールボックスを構築する、全国規模の 1 億 4400 万ドル規模のプログラム「STOMP：Systematic Targeting Of MicroPlastics (マイクロプラスチックの体系的標的化)」を発表しました。

「本日、米国保健福祉省 (HHS) は、人々の健康に対する脅威として増大するマイクロプラスチックに対処するため、断固たる措置を講じます」と、ロバート・F・ケネディ・ジュニア保健福祉長官は述べました。「アメリカ国民は、体内のマイクロプラスチックが健康にどのような影響を与えるのかについて、明確な答えを得る権利があります。ARPA-H の STOMP プログラムを通じて、マイクロプラスチックへの曝露を測定し、リスク源を特定し、それを低減するための的を絞った解決策を開発していきます。」

食品、空気、水に含まれるプラスチックは、人体に蓄積されています。研究者たちは、肺、動脈プラーク、脳からマイクロプラスチックを検出しています。動物実験では、これが疾患を引き起こすことが示されており<sup>1,2</sup>、ヒトを対象とした研究では、高い相関関係が示されています<sup>3</sup>。

しかしながら、今日に至るまで、私たちは依然として多くのことを知らないままです。臓器内のマイクロプラスチックを正確に測定する方法がなく、また、それぞれのプラスチックが異なる作用をするため、どのマイクロプラスチックがどのような影響を及ぼしているのかも理解できていません。これは重要な点です。測定できないものは除去できませんし、理解できない影響に対して正確で安全かつ効果的な介入策を開発することもできません。

「マイクロプラスチックは、私たち自身や子供たちの体内を含む、あらゆる臓器に存在しています。しかし、どのマイクロプラスチックが有害なのか、またどのように除去すればよいのかは分かっていません」と、ARPA-H 所長のアリシア・ジャクソン博士は述べています。「誰も、未知の粒子が体内に蓄積されることを望みません。この分野は暗闇の中で研究が進められてきました。STOMP は、その暗闇に光を当てようとしています。」

イリアナ・ハンク博士とシャノン・グリーン博士がプログラムマネージャーを務める STOMP プログラムは、迅速で手頃な価格で広く利用可能なツールを開発しています。なぜなら、その目標は少数の人々にしか届かない画期的な発見ではなく、すべての人を守り、マイクロプラスチック関連疾患が医療システムにもたらす可能性のある将来的なコストを削減するための基盤を築くことだからです。

STOMP は、2 つのフェーズにわたって 3 つの技術分野に焦点を当てます。フェーズ 1 は測定とメカニズム、フェーズ 2 は除去です。

「最初の重要なステップは、マイクロプラスチックを正確に測定し、それがどのように様々な臓器系に到達するのかを理解することです」と、ARPA-H プログラムマネージャーのイリアナ・ハンク博士は述べています。「そのため、正確な測定とマッピングのための強固で共通の基盤を確立する必要があります。」

フェーズ 1 では、STOMP の研究者たちは、人体内のマイクロプラスチックを理解するための実験を設計します。また、個々のマイクロプラスチック負荷を定量化する臨床検査を含む、マイクロプラスチック測定ゴールドスタンダードとなる方法を開発し、大規模なモニタリングと介入を可能にします。人体へのマイクロプラスチックの蓄積は広く懸念されていますが、その蓄積の程度については意見が一致していません。これは主に、測定技術が十分ではなく、研究室間で結果にばらつきが生じるためです。CDC はこれらの方法の独立した検証機関として機能し、測定結果の信頼性を確保します。

重要な点として、この研究はプラスチック材料のリスク層別化メカニズム（生物学的有害性に基づいてランク付けするメカニズム）を構築し、科学者、政策立案者、そして産業界が、この分野で最も重要な問い、すなわち、どのマイクロプラスチックに最も緊急に、どのような方法で対処すべきかという問いに対して共通の答えを見出すことを可能にするでしょう。

ARPA-H プログラムマネージャーのシャノン・グリーン博士は、「私たちの生活からプラスチックを完全に切り離すことは物理的に不可能です。衣服、食料や飲料水の原料など、私たちが触れるあらゆるものにプラスチックは存在します。マイクロプラスチックが体内でどのように分布し、どのような害を引き起こしているのかを理解しなければ、最終的にマイクロプラスチックを除去して人々の健康を改善するという次の段階に進むことはできません」と述べています。

除去は第 2 段階の焦点であり、これまでの研究が不可欠であることが証明されています。異なるマイクロプラスチックは異なる臓器に蓄積し、異なる細胞バリアを通過し、異なる生物学的経路を阻害します。どの種類のマイクロプラスチックが最も有害で、どこに蓄積され、体内をどのように移動するのかを知ることによってのみ、正確で安全かつ効果的な介入策を設計することができます。これらのアプローチは、医薬品生物学と生物修復科学を逆方向に応用したものです。

これらの技術により、個人や医療従事者は、特に妊婦、子供、慢性疾患患者、高濃度曝露労働者といった脆弱なグループにとって有害な可能性のあるマイクロプラスチックを検出・削減できるようになります。信頼性が高く、広く利用可能な検査方法があれば、公衆衛生当局、規制当局、医療関係者は、今後数十年にわたり、政策立案、介入策のモニタリング、健康への影響への対応を行うことができるでしょう。

ARPA-H は、STOMP の目標達成にはチームが必要になると考えています。提案希望者は、幅広い技術的専門知識を持つ多分野横断的なチームを編成することを推奨します。STOMP のプログラムページには、募集要項や提案者向け説明会への登録方法など、詳細が掲載されています。

###

## ケネディ長官、マイアミでの「健康を取り戻そう」ツアーで病院の栄養改善への取り組みとフロリダ州の農業パートナーシップを称賛

2026 年 3 月 30 日、ロバート・F・ケネディ・ジュニア保健福祉長官は、全米を巡る「健康を取り戻そう」ツアーの最新行程において、フロリダ州の農場と病院の給食システムを直接結びつけることで、栄養重視の患者ケアを強化するという病院の新たな取り組みを称賛しました。

ケネディ長官はまた、メディケア・メディケイドサービスセンター（CMS）が、病院に対し、米国人のための食事ガイドラインに沿った食事を提供し、超加工食品、加糖飲料、精製炭水化物、添加糖の摂取量を削減することで、患者の栄養基準を満たすよう指示する品質・安全に関する特別警告を発令したことを発表しました。

ヘッドライン：

- POLITICO：RFK Jr.氏、病院からジャンクフードを排除する取り組みをフロリダで展開
- Bloomberg：RFK Jr.氏、「本物の食べ物を食べよう」キャンペーンを病院の食事にまで広げる
- Washington Examiner：RFK Jr.氏とオズ博士、病院が不健康な食事を提供すれば資金援助を失うと主張
- Epoch Times：RFK Jr.氏、病院はより健康的な食事を提供するべきだと主張
- South Florida Sun Sentinel：ロバート・F・ケネディ・ジュニア氏、マイアミで健康的な病院メニュー構想を発表
- Miami Herald：マイアミ近郊の病院が患者食を変更。ケネディ厚生長官の発言はこちら
- Florida's Voice：ケネディ氏とシンプソン氏、フロリダ州で農場から病院への連携を推進、ジャンクフードを新鮮な地元食材に置き換える
- WPEC CBS 12 Miami：RFK Jr.氏とオズ博士、フロリダ州で健康的な患者食を推進する農場から病院への連携構想を開始 Medpage Today：病院は提供する食事の質を向上させる必要がある、と連邦当局者が指摘
- Fierce Healthcare：米国保健福祉省（HHS）は、病院に対し、患者向けメニューを最新の栄養ガイドラインに合わせるよう促す
- Modern Healthcare：ロバート・F・ケネディ・ジュニア氏、病院の食事に「本物の食べ物を食べよう」キャンペーンを展開
- Civil Eats：トランプ政権、病院に新たな栄養ガイドラインへの準拠を指示
- Food Fix：トランプ政権、病院に対し超加工食品の排除を指示
- Rock The New Food Pyramid：意見記事 - 病院が本物の食べ物を提供しなければ、連邦政府の資金援助を失う可能性がある — そして、それは当然のことだ

#### 医療専門家：

- イェール大学医学部外科教授、ジョン・モートン医師（X誌掲載）：「健康な患者のためには、患者と医療従事者のための食事を含め、健康な病院が必要だ！」
- 『健康の秘訣』の著者であるウィル・コール博士は、X誌を通じて次のように述べています。『『本物の食べ物を食べよう』が病院の方針になりました。ロバート・F・ケネディ・ジュニア保健福祉長官は、全米の病院に対し、健康的な食事、つまり栄養価の高い本物の食品を優先し、砂糖や加工食品を排除した食事を提供しなければ、メディケアとメディケイドの資金援助を失うリスクがあるという全国的な警告を発しました。治療を必要とする人々に、慢性的な健康問題を引き起こすような食事を与えるのは、まさに狂気の沙汰です。』
- 薬学博士のシャヤン・セン博士は、X誌を通じて次のように述べています。「政治的な立場に関係なく、これは実際には良いことです。病院は国内で最も質の悪い食事を提供しているところの一つです。最終的にどうなるか、興味深く見守りたいと思います。」
- 看護師のケイト・ジョン氏（X経由）：「ケネディ長官に感謝します。こんなことをしなければならぬなんて信じられません。病院は癒しの場であり、健康的な食生活の実践を含め、人々の回復を導く究極の基準を示す場所であるべきです。連邦政府の補助金や歪んだインセンティブによって、病院は大手食品会社が市場シェアを貪り食う場所になってしまいました。」
- 医師でありヘルスケア創設者でもあるカウシャル・クルカルニ医師は、Xを通じて次のように述べています。「米国の医療費は年間約5兆ドルに達し、その約90%が慢性疾患に関連しています。本日、メディケア・メディケイドサービスセンター（CMS）のオズ医師（@DrOzCMS）は、紀元前400年にヒポクラテスが言った『食を薬とせよ』という言葉が病院に改めて伝えました。適切な食事が健康とフィットネスの基盤であり、アメリカ人の食生活が慢性疾患の蔓延の根源であることは誰もが知っています。これは素晴らしいことであり、ずっと前から必要だったことです…」
- 医師のアイリーン・マヴラカキス医師もXを通じて次のように述べています。「これは素晴らしい。ずっと前から必要だった。」
- カナダのリハビリテーションおよび疼痛医学の専門家であるアブドゥル・ハマド医師は、Xを通じて次のように翻訳しました。「本日、CMS（メディケア・メディケイドサービスセンター）は、すべての病院に対し、患者への糖分の多い飲料と炎症を引き起こす加工食品の提供を中止するよう指示する覚書を発行しました。従わない場合は、給付金を受け取れなくなるリスクがあります。これは大胆かつ論理的な措置であり、命を救うことになるでしょう…」

#### 政府関係者：

- 病院がフロリダの生産者から直接食材を調達しやすくするためです。ここフロリダでは、ただ口にするだけでなく、実際に生産しているのですから！

- ヴァーン・ブキャナン下院議員はプレスリリースで次のように述べています。「長年にわたり、私たちの医療制度は病気の治療に重点を置き、予防に力を入れてきませんでした。トランプ政権とケネディ長官が栄養を医療の最優先事項に据えたことを高く評価します。患者に何を提供するかは、処方箋と同じくらい重要です。より良い治療成果、コスト削減、そしてより健康な地域社会を実現するためには、予防を優先し、より良い栄養を推進し、身体活動を促進し、早期介入を行う必要があります。これらの新しい基準とフロリダの農家との連携は、まさに私たちが必要としている解決策です。病院と地元の生産者を結びつけることで、患者に新鮮で栄養価の高い食品を提供し、農家を支援し、食料供給網を強化します。これは患者、フロリダ、そしてアメリカの医療の未来にとって大きな成果です。予防を最優先し、アメリカ国民が自らの健康を管理できるようなシステムを構築するために、保健福祉省（HHS）と協力できることを楽しみにしています。」
- テキサス州下院議員で医師でもあるトム・オリバーソン氏は、X紙を通じて次のように述べています。「私が特に腹立たしく思っているのは、病院食がいかにもひどく、そしていかに不健康かということです。これは本当にずっと前から必要だったことです！」

#### 擁護団体および組織：

- アメリカ・ファースト政策研究所の「ヘルシー・アメリカ政策」ディレクター兼上級政策ディレクター、ハンナ・アンダーソン氏は、プレスリリースを通じて次のように述べています。「フロリダ州は、医療関係者、農業関係者、そして行政関係者が協力して患者を第一に考えることで何が可能になるかを示しています。これは、より良い食事、より良い健康、そして全国的に展開可能なモデルという、実践的な解決策に関するものです。」
- アメリカ・ファースト政策研究所の最高渉外責任者兼アメリカ・ファースト女性イニシアチブ議長、ステイシー・シーフェリン氏は、プレスリリースを通じて次のように述べています。「すべての州がこれを実現できるはずですが、これは共和党か民主党かの問題ではなく、アメリカ国民に食料を提供し、家族がより健康的な生活を送れるようにするための問題なのです。」
- MAHA アクションはX紙を通じて次のように述べています。「RFK ジュニア氏が、病院が糖尿病患者者にゼリーやコカ・コーラのような、病状を悪化させる食品を提供していると指摘しました。」  
「糖尿病の女性に…すぐに…ゼリーとコカ・コーラが勧められた。」  
「そして他にも、糖分を含む様々な食品が勧められた。これらはすべて代謝系に悪影響を与え、糖尿病を悪化させるものだ。」  
「私たちは世界最高の医師と世界最高水準の病院を持っている。」  
「しかし…彼らは、今日の医療において最も重要なツールが良質な食事であることを認識していない。」
- MAHA Action (X 経由)：「RFK Jr.は、連邦政府の資金援助を維持するためには、病院が健康的な食事を提供することが義務付けられると発表した。」  
「オズ博士は、全米のすべての病院に健康と安全に関する通知を送付し、食品の購入を食事ガイドラインに合わせるよう求めた。」
- America's Essential Hospitals (プレスリリース)：「CMS (メディケア・メディケイドサービスセンター)は、病院に対し、2025~2030年版米国人のための食事ガイドラインに沿って、食品および栄養サービスの方針、標準メニュー、治療食プロトコル、食品調達方法を見直し、更新するよう奨励した。」
- 米国病院協会 (AHA) のプレスリリースによると、「この覚書は、病院に対し、メディケア参加条件として、献立や食事が認められた栄養ガイドラインに沿って個々の患者の栄養ニーズを満たすことを義務付けていることを改めて周知するものです。また、病院に対し、最近発表された『2025-2030年版米国人のための食事ガイドライン』に沿うよう、食事・栄養サービスに関する方針、標準献立、治療プロトコル、その他の診療慣行を見直し、改訂するよう求めています。」
- チルドレンズ・ヘルス・ディフェンス (Children's Health Defense) はXを通じて、「オズ博士は、医師時代に病院食を食べると病気になるから食べないようにと言われたと語っています。『私はコロンビア大学でキャリアをスタートしました…病院から食事が運ばれてきました。』『集中治療室の患者と同じ食事でした。』『チーフ・レジデントは私たちに…「その食事は食べるな。食べたら病気になるぞ」と言いました。』『でも私たちは患者にはそれを出していました。』』と述べています。
- フォアサイト・インスティテュートの共同創設者兼シニアフェロー、クリスティン・ピーターソン氏はXを通じて、「現在の米国政権についてどう思おうと、米国の病院食を見たことがある人なら、そこに大きな問題があることがわかるでしょう。病気の人には良質な食事が必要です。」と述べています。

#### インフルエンサーとメディア関係者：

- ライト・ライン・ニュースとFL ボイス・ニュースのチーフ・コンテンツ・オフィサー、エリック・L Daugh氏はXを通じて、「速報：ロバート・F・ケネディ・ジュニア保健長官とオズ博士が、全米のすべての病院に…を使用するよう指示しました。」と述べています。メディケアとメディケイ

ドの資金を受け取り続けたいなら、新しい HHS ガイドラインに沿った本物の食品を提供しなければならない。大勝利だ！

- @theGaryBrecka via X: 「病院は初めて、超加工食品や砂糖たっぷりの食品から、実際に治癒を促進する栄養価が高くタンパク質を豊富に含んだ本物の食事へと移行するよう促されている。@SecKennedy と @DrOzCMS が主導するこの取り組みは、私たちがずっと知っていたことをようやく認めるシステムの始まりだ。食べ物は単なる燃料ではない。情報なのだ。治癒させるか、害を与えるかのどちらかだ。私は、命をかけて闘っている患者にソーダやゼリーを与えているのを見てきた。」

インフルエンサーとメディア関係者：

- @Erio 「加工食品ばかり食べさせられ…体に必要な栄養素が完全に枯渇した状態で…」
- @BrandonStraka (X 経由)：「HHS (米国保健福祉省) 当局は、病院に対し、連邦政府の食事ガイドラインに沿った食事を提供するよう促しており、従わない場合はメディケアとメディケイドの資金援助が打ち切られる可能性がある。オズ博士は、メディケイドとメディケアの給付資格を維持するために、健康と安全に関する通知を出した。」
- @Eva Knott (X 経由)：「米国の保健当局は昨日、病院に対し、患者により栄養価の高い食事を提供しなければならないと通告した。ロバート・F・ケネディ・ジュニア保健長官は3月30日、この新たな「連邦政府の義務付け」は、病院がより良い食事を提供するよう促すものだと述べた。「病院食はどこもかしこもひどく、もはや蔑称になっている」と彼は述べた。「『病院食みたいな味だ』と言われても、褒め言葉ではない。」
- @FloridaGrand (X 経由)：「HHS 長官ロバート・ケネディ・ジュニア氏が主導する MAHA 運動が昨日マイアミのニックラウス小児病院にやってきた。フロリダ州農業長官ウィルトン・シンプソン氏は、フロリダ州がトランプ政権の最新の医療推進策である、病院へのより健康的な食品の提供をフロリダ州が推進すると発表した。シンプソン氏は特に、昨年開始された、フロリダ州の農家や牧場主とフードバンクを結びつけ、栄養改善と食品ロス削減を支援するプログラムを拡大する。この健康的な取り組みは、トランプ政権が在任中に成し遂げた最も優れたことの一つと言えるだろう…」
- @StephenGardnerX (X 経由)：「速報：RFK ジュニア氏とドクター・オズ氏が、全米の病院に対し「本物の食品」基準の採用を促している。さもなければ、メディケアとメディケイドの資金を失うリスクがある。HHS の新たな指針は、病院の食品購入を連邦政府の食事規定に連動させ、遵守を促す強力なインセンティブとなっている。」 MAHA 勝利！
- @itsmarlamaples (X 経由)：「素晴らしい仕事ぶりです、皆さん…私たちは子供たちの健康のために戦い続けることを決してやめません。すべての子供たちに、健康な人生を送るための正直な子供時代をプレゼントしましょう。」
- @CalGreekGirl (Ethos Culinary オーナー、X 経由)：「入院経験のある方なら、これが本当に必要なことだとお分かりでしょう！」
- @BoLoudon (X 経由)：「速報：トランプ政権関係者の RFK Jr.氏とオズ博士によると、アメリカの病院がメディケアとメディケイドの資金を受け取り続けるには、本物の食品を使用しなければならない。アメリカを再び健康に！」

###